

Title	ペシャワール会/ Peace (Japan) Medical Services
Author(s)	村上, 優
Citation	目で見るWHO. 2022, 80, p. 18-19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/89355
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ペシャワール会/ Peace (Japan) Medical Services



ペシャワール会会長/ PMS総院長

ワール会発足メンバーで1992年事務局長、 2015年よりは会長。2019年中村哲医師没後に 現地PMSメンバーに求められ後任でPMS総院長 を併任。精神科医。

「私たちの現地事業が多くの人々の慰 めになり、ひとつの灯火として存続する ことを願って止みません――中村哲」

ペシャワール会は、1983年に中村哲 医師のパキスタン北西辺境州(現カイバ ルパクトゥクワ州) ならびにアフガニス タンでの医療活動を支援する目的で創設 されました。以来、39年が経ち、現在 はアフガニスタンのナンガラハル州を中 心に医療、農業、灌漑用水路事業を展開 しています。アフガニスタンでは国際 NGO として Peace (Japan) Medical Services = PMS が登録されて現地活 動の全てを実施しています。2019年 12月4日に何者かに襲撃されて、PMS 総院長だった中村医師が亡くなりました が、「中村哲先生の事業は全て継続し、 夢は全て引き継ぐ」を合言葉に、PMS とペシャワール会が一層の連携を強めて 現在に至ります。死せる中村哲が、その 後のすべての事業を今でも進めている実 感があります。ペシャワール会は 23,000 名を超える会員・支援者が活動 を支え、PMS はアフガニスタンで 104 名のスタッフ、約200名の作業員が働 いています。

中村医師が現地活動を始めた 1984 年には当時のソ連軍がアフガニスタンに 侵攻し、1989年のソ連軍撤退後は内戦 が続きました。1996年にタリバンが政 権を取り、一時期は治安が回復しました が、2001年に米国での同時多発テロを 理由に欧米軍がアフガニスタンに侵攻、

戦闘が続き治安は悪化をたどっていまし た。2021年、再びタリバンが政権を奪 取しましたが、この間実に40年も戦乱 が続いていました。そのうえ 2000年 以降は、地球温暖化の影響による大干ば つが、国民の90%が農民・遊牧民であ ったアフガニスタンに大きな打撃を与え ています。以下、PMS の具体的な活動 を紹介します。

医療

中村の医療活動はパキスタン北西辺境 州から東部アフガニスタンのハンセン病 コントロール計画に始まります。加えて アフガン難民キャンプでの医療に従事し つつ、アフガン人医療関係者を組織化し て、後の PMS の基礎を作り、育てました。 中村は、ハンセン病の多発地帯は山岳地 域の貧しい地域であることを認識し、山 岳無医地区医療計画をたて、山岳地域に 6ヵ所の診療所を建設しました。医師や 看護教育にも力を入れ、これらの医療者 を診療所に派遣し、農村・山村無医地域 での医療を提供する体制を作りました。 戦火の広がりや、時の政権・国際機関の 思惑などに翻弄されて、現在はダラエヌ ール渓谷にある診療所でのみ診療を継続 しています。ハンセン病根絶計画は途半 ばですが、ダラエヌール診療所はこの地 域での医療活動の拠点となっています。

灌漑事業

2000年の大干ばつの際に「まずは命 をつなぐ」として飲料水の確保を目的に



Q3 貯水池 (2009年6月)







●中村哲医師 ②植樹8年後(2017年8月)●バルカシコート堰建設(2021年11月23日)

井戸事業が始まりました。2006年まで にナンガラハル州の多くの地点で 1600 本の井戸掘りを実行、飲料水だけでなく 大口径の灌漑井戸や、涸れたカレーズの 補修などを手がけました。しかし、進行 する干ばつのために田畑が十漠化して農 業は荒廃、人々の健康や生活が破壊され ていきました。2003年、「百の診療所 より一本の用水路」を合言葉に、「緑の 大地計画」として 6000m 以上の山々の 雪を水源とするクナール川より水を導く 「マルワリード用水路」建設が始まりま した。急流のクナール川に取水堰を造る ことは困難でしたが、江戸時代に建設さ れ現在も機能している筑後川の山田堰に ヒントを得て、斜め堰を導入して成功を 収めました。マルワード用水路は2010 年に全長27kmに達して周辺を潤し、土 漠化した農地が復活していきました。地 元の農民の多くが用水路工事に参加して、 蛇籠工や柳枝工、堰板方式の取水門、石 出し水制など伝統的な工法を用い、地元 にある資材(石材など)を組み合わせ、 PMS 方式灌漑用水路方式があみだされ ました。この成果を見たクナール川周辺 住民からは工事の依頼が度々あり、現在

までに11本の取水堰を作り壊れた用水路を再生し、新しい用水路を建設するなどして16,500 ヘクタール65 万人の人々が生活できる沃野が復活しました。これらは「アフガン・緑の大地計画 ― 伝統に学ぶ灌漑工法と甦る農業」(中村哲著2018年)としてまとめられ、その実地書として「PMS方式灌漑事業ガイドライン 水と食料の確保を」の作成が中村の生前から始まり、没後も多くの関係者の努力で2021年に完成しました。これをもとにアフガニスタン全土での干ばつへの対処、農業の復活を目指しています。

農業

マルワリード用水路が到達したガンベリ地区に230ヘクタールの土地を国から貸与され、ガンベリ農園がPMSによって試験農場として運営されています。 麦、米、果樹、野菜が栽培され、酪農や養蜂が行われています。灌漑した地域には現在まで130万本が植樹され、農地と合わせて緑が回復しています。中村は「まず命のある事、三度三度のごはんが食べられること、家族一緒におれること、

それ以上の望みを持つアフガニスタン人 は少ない」と平和の概念を具体的に述べ ています。戦禍、干ばつ、飢餓、難民と なるなど常に命の危機にさらされてきた アフガニスタンの人々と共に歩んだ中村 の姿が、この言葉に現れています。

2022年1月現在、全てのペシャワー ル会 /PMS の事業は中村の精神を引き 継いで行動しています。復活したタリバ ン政権に対し、国際社会は「女性の人権」 「包摂的でない政権」として経済制裁を 科し、米国にあったアフガニスタンの全 財産を凍結し、世界銀行や IMF もそれ に倣いました。未曽有の干ばつで国民の 半分が影響を受け、800万人以上の人 々が飢餓・餓死の危機が迫っている (WFP の発表) 現実に加えて、経済的な 混乱がアフガニスタンを襲っています。 ペシャワール会 /PMS は生命の危機に 瀕している人々に、2022年1月23日 より食糧支援を実施しています。ささや かですが現地 PMS スタッフが同胞のた めに活動をしていることに誇りを感じて います。